



年頭挨拶 2014

国際資料研究所 小川千代子

新年のご挨拶をもうしあげます。昨年、日本の政治が大きく変化しました。日本版NSCが出来て、特定秘密保護法が成立しました。トップ政治家が平気で選挙公約を反古にし、報道機関は誰もが知っていて当然と言わんばかりに、「福島のリルトダウン」などと言いつけています。2011年の3.11当時には、リルトダウンなどありえないという論調でしたが、あれは全くのウソだった「らしい」こともみえてきました。「らしい」というのは、当時の報道が間違いだったという説明を聞いた覚えも見た覚えもないからです。2年半位の時間を経過したら、人々はもう忘れたのだと決めつけて、「実は」とも言わずに当たり前のように「リルトダウンが起きた」などと言いつけているのですから、私たち国民は政府にも、報道機関にも、随分と馬鹿にされたものです。にもかかわらず、私たちは表面上、平穏な毎日を過ごしている。目に見えない放射能に私たちがどれほど汚染されようとも、見えない故に放射能は存在しないことに決めつけられ、だから大丈夫、などと言いつけています。しかし、あと30年もしたら、きっと真実が見えてくるでしょう。私たちがその存在について認識を改めるには時間を要します。時の経過は、私たちにどんなものをもたらすのか、見守り記録することを心がけていこうと思います。

国際資料研究所 緊急声明

2013年11月23日

特定秘密保護法案に対する懸念

公文書管理制度と基本的人権の観点から

国際資料研究所では、2004年に文書基本法案を発表し、文書を法の下で制御すべきことを主張してきました。その努力は2009年の公文書管理法が成立したことで一定の成果を収めました。しかし、成立した公文書管理法には、少なくとも次の2点の不備があります。

1. 公文書の秘密指定とその解除の規定がないこと
2. 公文書管理を担当する公務員に対する罰則規定がないこと

現在国会で審議中の特定秘密保護法案は、上記2点の公文書管理法の不備により、その必要性が唱えられる結果となったものと考えられます。しかし、公文書管理制度の不備は、本来公文書管理法の改正により整備すべきです。

周知のように現状でも、公文書には秘密指定が施されているものは決して少なくはありません。ですから、公文書管理法の中に、秘密指定のルール、秘密解除のルールを盛り込み、秘密文書取り扱いの制度を整備する必要があります。

しかしながら、現在審議中の特定秘密保護法は、秘密情報を扱う担当者とその周辺の人々に、不必要な精神的圧力を加えるものです。このような圧力は結果として人々の基本的人権、とりわけ思想信条、表現の自由を損なうことが、大きく懸念されます。

管理すべきは人間ではなく秘密文書、秘密情報であり、そのための制度の整備こそが求められるべきです。

以上の理由から、現行憲法が保障する日本国民の基本的人権の侵害が予測される特定秘密保護法案の成立を、公文書管理制度整備の観点から強く懸念するものです。

小川 千代子
国際資料研究所 代表

おもな内容

DJIレポート No.97 20140120

年頭挨拶/特定秘密保護法案 DJI 緊急声明/主な内容……………1	視点ドイツ Amazon の「事務」……………4
アーカイブ10年記事一覧……………2	消息/あしあと/活動/巻末随想……………5
見学レポート・パリ市公文書館新館(元ナミ)……………3	

アーカイブ 10 年 ～2014 年をむかえて～

本誌では 2005 年を「アーカイブ元年」と唱え、アーカイブ俯瞰記事の掲載につとめてきました。
これはアーカイブ元年以来の関連記事一覧表です。

年	本誌 No.	記事	備考
2005	61 巻頭	2005 年をアーカイブ元年に 目標 文書基本法の実現 基礎自治体のアーカイブ整備	2004 年、日経新聞の連載「アーカイブ零(ゼロ)年」をうけ、国際資料研究所として 2005 年を「アーカイブ元年」と宣言。4 月、E 文書法施行
2006	65 巻頭	アーカイブ元年からアーカイブ 2 年へ ①文書基本法の実現②市区町村のアーカイブ整備③電子記録の長期保存必要性主張④日本のアーカイブ活動の国際的発信	2005 年から NIRA「公文書管理の法制度検討委員会」(委員長高橋滋一橋大学大学院教授)、内閣府「懇談会」に中間書庫と電子媒体記録の 2 研究会が置かれる 6 月「宙に浮いた年金記録」が約 5000 万件あることが判明
	66 巻頭	アーカイブ 2 年 文書基本法の実現に向けて DJI「文書基本法」の見直し	
	69 巻末随想	アーカイブ 2 年回顧と展望 電子記録の長期保存がアーカイブ 3 年の課題	
2007	70 主張	アーカイブ 3 年 ブルーシールド国内委員会設立を！→ NDL/ JLA『ブルーシールド危機にひんする文化遺産の保護のために』出版	国民保護法成立、有事の文化財保護の根拠法。ブルーシールドの根拠であるハーグ条約を批准。 社会保険庁、国民年金記録 5 千万件が宙に浮く、など国会で問題となる
	71 視点	今こそ記録管理院を創設せよ(社会保険庁年金記録問題をうけ)	
2008	73 視点	アーカイブ 4 年を迎えて 相次ぐズサン文書管理、問われる「国家の品格」	3 月、公文書管理のあり方等に関する有識者会議、発足。7 月、中間報告、11 月、最終報告。 http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/koubun/index.html
	74 巻末随想	文書管理法と文書局	
	75+76 視点	国家事業として取り組むべき公文書管理	
2009	77 視点	公文書管理法の早期成立を望む(アーカイブ 5 年)	6 月 20 日、公文書管理法成立 11 月 21 日、外務省が保管する日米外交密約文書の存在が明るみに出る。
	79+80 視点	DJI の視点 成立した公文書管理法	
	81 視点	市場となるアーカイブ(アーカイブ 6 年)	
2010	82+83 散歩道	博物館・図書館におけるアーカイブの存在と MLA 連携	7 月公文書管理委員会(座長御厨貴東京大学教授)発足、公文書管理法がドライン制定。
2011	84 巻頭 巻末随想 視点	アーカイブ 7 年を迎えて 大丈夫？大学アーカイブ ◆近況・アーカイブ 6 年、日本のアーカイブとアーキビスト	3 月 11 日 東日本大震災 ツイッターによる救援呼びかけが盛んにおこなわれ、saveMLAK の活動に関心が集まる。 被災地で失われた風景等の記憶の保存を目指す、デジタル写真アーカイブプロジェクト、広がる(ヤフーサイト等) 4 月 公文書管理法施行 5 月 外務省外交機密文書の公表
	85 巻頭 記録集 散歩	東日本大震災お見舞い DJI メルトモ速報再録 1.1～3.31 3. 11 大震災とツイッター	
	86+87	記録・千葉県九十九里町、旭市飯岡町の津波被害、野田村の図書館、大槌町役場の公文書	
2012	88 巻頭	アーカイブ 8 年 DJI 記事年表	1 月 原発事故時の議事録不作成が問題となる 4 月 国立国会図書館長で、デジタル・アーカイブを推進した長尾真氏、退任。 7 月 ICA 大会、オーストラリア、ブリスベン 10 月 円の対ドル相場が 75 円 32 銭の過去最高値 12 月 政権交代、自民党安倍総理大臣就任
	89 巻頭	今、トレンドは『アーカイブ』	
	90 巻頭	突撃！モンゴルの国立記録管理院+アーカイブセンター(～92) アーカイブの看板@ベルリン(転載)	
	91 巻頭	4 年目を迎えた UNHCR ボランティア	
	92 巻頭 見学記	国際連盟アーカイブ in Geneva 福井県立文書館見学レポート DAS Do you know? SAAのMLから	
2013	93 巻頭 見学記 視点	アーカイブ 9 年 DJI 記事年表 ベルンとベルリンの公文書館見学記 アーカイブの世紀がはじまった	志立託爾氏(元三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)社長1月31日死去、享年85。 2 月 国立公文書館長公募 4 月 自民党憲法改正草案発表 6 月 新国立公文書館長に加藤丈夫氏 9 月 アーカイブ・記録管理全国大会 10 月 特定秘密保護法案、国会で審議入り 11 月、国会周辺で保護法案反対デモ盛ん 11 月 23 日 国際資料研究所緊急声明発表 11 月 25 日 記録管理学会緊急声明発表 12 月 6 日 特定秘密保護法成立 12 月 26 日 安倍晋三首相靖国神社参拝
	94 巻頭 視点 消息	三ツ星！東京都公文書館の情報検索システム 激写！再訪モンゴルの国立公文書館外観 小布施町文書館(4月24日)	
	95 報告 視点 紹介	タイの国立公文書館見学記 ついに実現！ウランバートルのアルヒーフ見学 新国立公文書館長	
	96 見学記	新館見学！フランス国立公文書館 ロンドンで教会のアーカイブ調査！ 国際赤十字委員会アーカイブの訪問調査と…	
2014	97 巻頭 DJI 年表 見学記	年頭挨拶 DJI 緊急声明 2013.11.23 アーカイブ 10 年 DJI 記事年表 パリ市公文書館	2 月 猪瀬前知事辞職に伴う東京都知事選挙

【見学レポート】



パリ市公文書館

～～若い世代のアーキビストさんに出会い、これからのアーカイブを考える～～

元ナミ（学習院大学大学院）



↑パリ市公文書館（Archives de Paris）の全景と2階の閲覧室の様子↑

2013.09.10 筆者撮影

「突撃アーカイブ見学」の最後日。パリ市公文書館（Archives de Paris）に向かった。パリ市公文書館は、メトロ11番線(或いはトラムT3b)のPorte des Lilas駅から徒歩5分ほどに位置している。

しかし、道の標識も微妙にゆがんでいて、間違っって幼稚園に入ったりして、ちょっと道を迷ってから着いた。ここはまさしくパリの「地方公文書館」であり、昔からのパリの古文書から現代の行政文書、民間収集のアーカイブまでが集っている。詳しい分類については、ホームページからもっと調べる必要がある。

2階にある暖かい雰囲気閲覧室に入る前に、1階のレジストレーションで英語と片言のフランス語で利用登録証を作った。その時、運よく7月に就任したばかりの新人アーキビストさんに出会った。同じ時代にアーカイブズ学を勉強し、アーキビストを目指していることについて共感が得られた。彼女の情熱と悠長な英語のおかげで、閲覧室の撮影許可のみならず、パリ市公文書館の民間アーカイブ収集活動などについても少し話を交わすことができた。若い人材が活躍できる場があること、積極的に活動していることなどについては、うらやましいことでもあった。今後とも若い世代のアーキビストとの連帯を大切にしていきたいと思う瞬間だった。

～～～

今回は、「突撃」の見学だったため、「特に利用したい資料がない」、「アーカイブズ学を勉強する学生」、「閲覧室などの施設と目録も見たい」、「可能であれば撮影もしたい」、「閲覧者は絶対

撮らないことにする」、「自分の研究資料として使用する」と、先に片言の英語で説明することで「利用したい資料がなければ帰れ！」の攻撃に対応できた。特に監視員の多い国立公文書館で、自由見学と撮影ができたことと、地方公文書館のアーキビストと話が出来たのは結構な成果だったと思う。

公文書館の経験がほとんどない「普通の利用者」の立場に戻ってみることで、記録資料を「提供」する側としての知識や実践ばかりを考えてきた立場から、「利用」する側としての感覚を振り返って考える機会にもなった。逆に、提供する側がすべての利用者を満足させられないことについてもわかる場所があった。今回訪問したフランスの公共機関では、スイスに比べて英語がほとんど通じなかった。公文書館の入り口から悠長な英語で何でも説明できる職員がどれくらいいるだろうか。どの国でも同じだろう。考えてみれば、答えは簡単かもしれない。

来年も機会があれば、今度こそ「どたばた」の少ない充実な現地調査に挑みたい。そして、海外の公文書館制度と記録資料の保存利用、民間アーカイブとの連携から、今、韓国と日本の地域アーカイブ活動に必要なものについて続けて考えていきたい。(完)

パリ市公文書館へのアクセス

Archives de Paris

18 boulevard Sérurier 75019 Paris

<http://www.paris.fr/politiques/paris-d-hier-a-aujourd-hui/archives-de-paris/p149>

ドイツ Amazon の「事務」

この春頃からハイフェツにはまって CD を買った。次にギャレットにはまって、CD を買った。いずれも通販。ハイフェツはアメリカなので、通販もアメリカの会社。ギャレットはアメリカとドイツのハーフながら基本ドイツだから、通販もドイツの Amazon。私は日本の Amazon にアカウントを持っているけど、ギャレットの CD 購入に際しては、久しく遠ざかっていたドイツ語に立ち向かうこととなり、恐る恐るその情報を入力した。ま、ダメもと♪。

結果、Amazon のグローバル企業ぶりに目を見張った！支払いカードまですべてワンクリック。言葉はドイツ語だけど、手続きは日本の Amazon と同じようにさらっとすんじゃった。

その後も、やはりドイツ語ではあるけど、ご注文の CD の発送はいつになるとか、だからお届け日はこのあたりになるとか、追加情報もいつも以上に丁寧。半世紀近く昔、初めて勤めた

ドイツの会社では、事務が実に理路整然だったことを、改めて思い出した。ドイツ式というのか、あの理路整然とした事務なら、通販でも公文書管理でも、秘密保護でも、ホロコーストでも、一度その事務の流れに乗れば万事間違いなく実務が進んでいくに違いあるまい。

で、それはいいのか。事務はちゃんとできて当たり前、それを土台に何を行うのか、どのように判断するのが問われる。経済、というか「いくら収入があるか」だけを追いかけるのではなく、それは何のためなのか、どのような社会的な役割に関わるものなのか、そこんことをしっかり意識、認識しておかないと、優秀な事務組織ほど間違える可能性は高い。このことを確認するために、11月6日には岩波ホールに行くつもりだった。しかし、それは果たせず翌週に日延べした。

●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

●菅真城「大学アーカイブズの世界」大阪大学出版会 DJI が尊敬する阪大出版会エディタ・アーキビストの編集によるこの本が上梓されたのは、2013年9月。大阪大学に大学アーカイブズができたので、こういう本が世に出ることも可能になった。公文書管理法「国立公文書館等」に該当する

国立大学アーカイブは、今後も増え続けるだろう。大学アーカイブズの理念と課題、大学アーカイブズの設立と法制、大学アーカイブズの活用の3部構成。A5判・上製・296頁 定価(本体4200円+税) ISBN978-4-87259-457-7。

◇◆◇アーキビストの消息(順不同、敬称略)◇◆◇【凡例:■機関●個人】

2013年4月1日

●戸嶋明 秋田県公文書館長

9月30日付退職

●峯尾始 東京都公文書館長

●松尾美里 東京都公文書館非常勤職員(日本銀行金融 研究所アーカイブスへ)

10月1日付

●岡秀子 東京都公文書館長(病院経営本部多摩総合医療センター事務局医事課長)

計報 10月 石本俊憲氏(前広島県立文書館長)

2007年のICA/SPA京都会議開催に尽力されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

★情報をお寄せ下さった皆様ありがとうございました。

国立公文書館 歴代館長 (DJI レポート No.81 20100331 既報に追加。当初の情報提供は国立公文書館)

氏名	在職期間	在職月数
1 岩倉 規夫	昭和46. 7. 1 - 昭和56. 2. 1	115
2 菅野 弘夫	昭和56. 2. 1 - 平成 元. 3. 31	97
3 小玉 正任	平成 元. 4. 1 - 平成 5. 6. 30	50
4 稲橋 一正	平成 7. 7. 1 - 平成10. 6. 30	35
5 高岡 完治	平成10. 7. 1 - 平成13. 3. 31	30
6 菊池 光興	平成13. 4. 1 - 平成21. 7. 7	99
7 高山 正也	平成21. 7. 7 - 平成25. 5. 31	46
8 加藤 丈夫	平成25. 6. 1 -	

●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.97 2014年1月20日 up、5頁、PDF。Web 国際資料研究所 www.djichiyoko.com

▼東京雑学大学ニュース(2013.11月号)「アーカイブの世界」

▼RMSJ ニュースレター10月号「5年目を迎えたUNHCRボランティア」【チョコの視点】国際赤十字委員会アーカイブの訪

問調査の訪問調査と赤十字新月博物館見学(いずれも DJI レポート No.96 転載)

▼レコード・マネジメント No.65、2013「研究大会に寄せて ちょっと欲張って 会長就任ご挨拶と大会の反省と」

DJI国際資料研究所の主な活動 2013年10月1日～2013年12月31日

<執筆>

・『DJILレポート』No.97 20131228 発行 8頁

www.djichiyoko.com にPDF掲載

・『レコード・マネジメント』No.65

<訪問>

12月2日 国立公文書館長、記録管理学会「特定秘密保護法案に対する緊急声明」を持参手交。東京・竹橋。

<出講>

10月5,19,26日、11月2,9,16,23,30日、12月7,14,21日 藤女子大学図書館情報学課程「資料特論」「情報資源組織論」札幌

10月2,9,16,23,30日、11月6,13,20,24,27日、12月4,11,18日 鶴見大学文学部「記録管理論」

10月22,29日 11月5,12,19,26日、12月3,10,17,24日、東京学芸大学「博物館資料保存論」、東京

<主催>

12月23日 小川アーカイブ湘南冬のBBQ、辻堂

<登壇>

11月23日 藤女子大学土曜講座コーディネータ、札幌

<見学>

10月31日 大倉山シャンツェ、羊が丘公園、札幌

11月10日、12月27日 小田原漁港食堂、神奈川

11月24日 板橋区公文書館、鶴見大学見学会、東京

12月10日 東京学芸大学大学史資料室他、博物館資料保存論受講生、東京

12月15日 花友にしこうじ、京都

<参加>

10月8日、11月26日 藤沢市公文書等管理に関する有識者会議

10月11日、12月2日、記録管理学会理事会、東京

10月8日、12月13日 藤女子大学図書館情報学課程委員会、札幌

11月14日 全史料協大会、学習院大学、東京

11月23日 藤女子大学土曜講座、札幌

12月3日 都立大オケラ同期会、渋谷

12月4日 ランチ・レストラン金の庭、横浜・鶴見

12月5日 千種台39会札幌支部会、札幌

12月9日 GRIPS 大来佐武郎アーカイブ整理作業、東京

12月8,22日 代々木教会クリスマス礼拝、東京

12月16日 KAIT 梶研吾コレクション整理作業、神奈川

12月19日 藤女子大学クリスマスお喜びの会、札幌

12月22日 原発国民投票忘年会、横浜

12月29日 原発国民投票街頭活動、藤沢

■巻末随想・バイオリン演奏を楽しむ

最近、毎日YouTubeでハイフェッツを聞いている。ハイフェッツの他、クライスラーも聞く。人に勧められてギドン・クレーメルも、リストに入れた。ユモレスクつながりで目に触れたのが、スークとダビッド・ギャレット。ギャレットは見せる人だ。チャイコフスキーのバイオリン協奏曲をウランバートルで聞いたのがきっかけで、なんだかバイオリン演奏を聞くのにのめり込んでしまった感がある。そしてこれを結構楽しんでいる。何を楽しんでいるかという、演奏者の姿かたち顔立ち等々、外見と音との組合せを「見る」ことを楽しんでいる。ハイフェッツは、1901年生で、昔風イケメン、東海林太郎的生真面目なコスチュームで舞台上に登場する。スークは明るい。クライスラーは明治生れのおしゃれなカッコマン。その作品や演奏もそのとおりだ。ギャレットは、わが子と同年代の、超イケメンと本人が自覚している。金髪に染めたロン毛をポニーテールに結び上げて、髭面で画面に登場する。その微笑みは甘く、退廃の匂いブンブン。現代の文化爛熟を象徴しているようだ。なんせ、モデルもやったりして、。ギドン・クレーメルは、団塊世代で親近感がわく。アルグリッチとの共演のクライスラー「愛の悲しみ」あたりはピカイチ。この人を教えてくれた人は「現代の第一人者」と評していたが、その通りだ。演奏ではアルグリッチとの駆け引き

(?)があたたかくて心地よい。惜しむらくは、イケメン系ではないこと。音源だけの世界なら、間違いなく第一人者だ。でもYouTubeのこの時代、見た目もおそろかにはできない。

YouTube ついでにウェブをあこれ見ていたら、英語のサイトで、「歴代バイオリン演奏者トップ10」というのが出てきた。10番目はダビッド・オイストラフ、上から5番目がハイフェッツ、トップはパガニーニとあった。コレリとか、古い知らない名前もあった。時代を超えて10人のバイオリン弾きを選んだ人は、音源だけで選んだんだろうな。それでもオイストラフが10番目って納得だ。

■祖母設計の家、重文指定申請へ

従姉妹から電話があった。もう30年位も昔に亡くなった祖母の生い立ち、出自について知りたいという。幸い、手元に若干の資料があるので、その範囲で情報提供をすることができた。「で、何のためなの?」「おばあちゃん設計した家を重要文化財に指定してもらおうと思ったら、その設計者は、どういう人ですかって聞かれちゃったのよ。これでどういう人だか説明できる。助かったわ。」

祖母の家を引き継いだその従姉妹は、多分昭和初期に建てられた木造家屋に愛着を持ったのだろう。文化庁は明治生れの家庭の主婦であった祖母が設計した家を重要文化財として認めるかなあ。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報

ISSN 1342-632X

DJILレポート

DJIホームページ: <http://www.djichiyoko.com>

No. 97 20140120

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax+ phone 0466-31-5061 DJI ブログ: <http://djiarchiv.exblog.jp/>

DJIメル友速報は、DJILレポートの無料メルマガです。配信ご希望の方はお申し込みください。Email: djiarchiv@yahoo.co.jp